「一週間フレンズ。」　きりしま志帆著　（スクウェア・エニックス）
三次市立君田中３年　杉本瑠菜さん

私は，見られなかった映画のノベライズ本を読むのが好きだ。中でもよく読むのは青春系。私の心を射抜いたこの１冊には，とてもピュアで涙を流してしまうシーンがあり，「自分がもし登場人物だったら」と考えてしまった。

高校２年生の長谷祐樹が，一週間で友達に関することを忘れてしまう藤宮香織に一目ぼれする。祐樹は「俺と，友達になってください」と何度も香織に頼む。しかし，香織は頼みをきかない。二人のやりとりを見ていた担任の先生は，祐樹に香織の症状を伝え，「そっとしておいてやれ。無理やり関わっても，相手を困らせるだけ」と諭す。

だが，祐樹はあきらめない。「交換日記をすれば自分のことを忘れにくくなる」と考え，交換日記を香織に提案する。

祐樹が何度も香織に「友達になってください」と頼み続ける根性がすごいと思った。私ならすぐあきらめてしまう。どんなことでも，自分の気持ちをしっかり相手に伝えることが大切だと，改めて分かった。

友達とのたくさんの思い出が一週間で消えることが私に起こったら，学校に行けなくなると思う。祐樹のように交換日記をして思い出を残したり，自分の気持ちを記したりしておくことは大事なことだと気付いた。普段，何げなく書いているノートやメモも時間が過ぎると大切な記憶になることに新鮮な驚きを感じた。私も中学生活残り１年の大切な思い出をしっかり紙につづりたい。